

小学生の頃の養育者からの言葉かけが女子大学生の自己制御機能に与える影響

森 下 正 康

（京都女子大学発達教育学部）

【目的】 小学生の頃の養育者からの言葉かけが、自己制御の発達にどのような影響を与えるかを明らかにすることを目的とした。仮説：小学生の頃に養育者に対する信頼が高い場合、養育者からの自己制御（自己抑制と自己主張）を促す言葉かけが多かった学生の方が、少なかった学生よりも自己抑制力、自己主張力、がんばる力得点は高いだろう。

【方法】 女子大学生を対象に質問紙調査を行った。小学生の頃の養育者からの言葉かけ、小学生の頃の養育者に対する信頼、現時点での自己抑制・自己主張・がんばる力について質問紙による調査を行った。記入漏れなどのない 346 名分のデータを分析の対象とした。各尺度に関する因子分析に基づいて尺度を作成し、アルファ係数により尺度の信頼性を確認した。言葉かけや信頼の得点について、得点の低いものを L 群、高いものを H 群に分類し、「自己抑制力」「自己主張力」「がんばる力」得点をそれぞれ従属変数として 2（信頼）× 2（言葉かけ）の分散分析を行った。

【結果と考察】 その結果、次のようなことが明らかとなった。①「自己抑制力」について分散分析を行った結果、養育者への「信頼」の高い群の方が「自己抑制力」得点は有意に高かったが、「自己抑制」を促す言葉かけ要因には有意差はなかった。したがって、養育者との高い信頼関係のなかで、「自己抑制力」が形成されると考えられる。また、「自己主張」を促す言葉かけと「信頼」に交互作用があり、養育者への「信頼」が高くかつ「自己主張」を促す言葉かけが多い群は、他の群より有意に「自己抑制力」得点が高いことが明らかとなった。②「自己主張力」については、養育者からの「自己抑制」や「自己主張」を促す言葉かけの多い群の方が「自己主張力」得点は高いという傾向があった（図 1）。また、養育者に対する「信頼」の低い群の方が「自己主張力」得点は高い傾向があった。したがって、自己主張の形成には、言葉かけを通じて自己制御機能を育てようとする言葉かけの影響と、信頼関係の低い養育者との対立や反抗という相互作用の影響の二つのプロセスが関与している可能性がある。この結果は仮説と一致しなかった。③「がんばる力」については、「信頼」と「自己抑制」を促す言葉かけの交互作用が有意で、「信頼」が高くかつ「自己抑制」を促す言葉かけが多い群は、他の群よりも「がんばる力」得点が有意に高かった（図 2）。また、「信頼」が高く「自己主張」を促進する言葉かけが多い群も、他の群より「がんばる力」得点が有意に高かった。したがって、養育者との信頼関係のなかで、子どもの自己制御を促す言葉かけは「がんばる力」の発達にプラスの影響を与える可能性があるといえる。これは仮説に沿った結果であった。「自己抑制」と「自己主張」を促す言葉かけの間には有意な正の相関があり、また「がんばる力」因子は「自己抑制力」因子と「自己主張力」因子の両方と相関が高く、両方の機能を内包していた。研究法上の問題点として、養育者からのことばかけが回想法によるという点が残る。（本研究は藤村あずさとの共同研究によるものである）

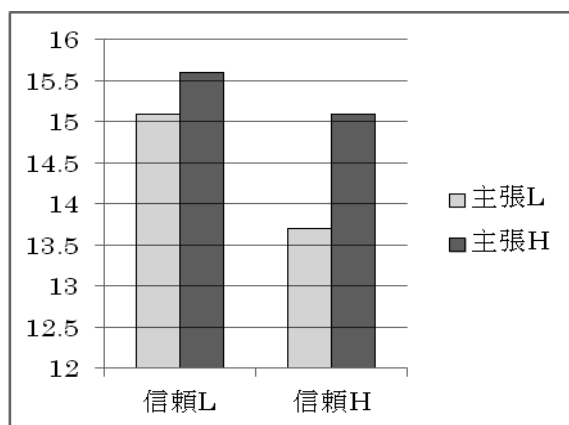


図 1 信頼と主張的な言葉かけ：自己主張力

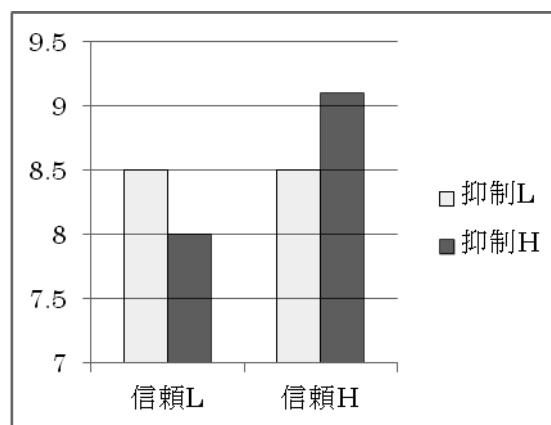


図 2 信頼と抑制的な言葉かけ：がんばる力